

論述試験（大学院入学試験）

注意

1. 試験開始の合図までに、この注意をよく読んで間違いのないようにして下さい。
2. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないで下さい。また解答用紙は机の上に裏返しにしておいて下さい。
3. この問題の本文は1ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合は申し出て下さい。
4. 解答は解答用紙の所定の場所に記入して下さい。解答用紙は2枚配布します。選択した問題ごとに解答用紙1枚以内で解答して下さい。
5. 解答用紙については「入学志願票」で希望したプログラムに応じて選び、どの問題に解答したかを○で囲んで示して下さい。解答した問題が示されていない場合は点を与えないことがあります。
6. 文字ははっきり書いて下さい。解答の文字が読みにくい場合は点を与えないことがあります。
7. 2枚の解答用紙の両方に受験番号を必ず記入して下さい。
8. 解答用紙の評点欄、答案番号欄には何も記入しないで下さい。
9. 問題冊子の白紙のページは答案の下書きに使うことができます。

問題は次のページより始まります。

論述試験問題

共通問題 1 問と選択問題（〔1〕～〔4〕）から 1 問、計 2 問について、それぞれの問いに日本語で答えなさい（選択問題は、「入学志願票」で希望したプログラムに応じて選んで下さい）。問題ごとに解答用紙 1 枚以内で解答しなさい。

2 枚の解答用紙の両方に受験番号を記入し、解答した問題を○で囲みなさい。

共通問題〔全員が解答すること。〕

生成 AI の活用によって日本語以外の外国語文献あるいは古典の解読が飛躍的に進みつつある今日、人文社会系の諸研究も大きな転換期を迎えている。生成 AI の利用を前提として、これから大学院で国際文化交流学を専攻するあなたは、生成 AI 活用の可能性と問題点をどのように考えるか。具体的に論じなさい。

選択問題〔以下の〔1〕～〔4〕より 1 問選択して解答すること。〕

〔1〕〔「アートマネジメント」プログラム〕

アートマネジメントにおいて、ミュージアム（博物館・美術館など）、ライブラリー（図書館）、アーカイブズ（文書館）の間での相互連携が呼びかけられるようになって久しい。それぞれの頭文字を取って「MLA 連携」という。あなたが現在いずれかの専門職員（学芸員・司書・アーキビスト）であると仮定して、この連携を推進するための実現可能な施策を提案しなさい。

〔2〕〔「国際協力」プログラム〕

科学技術協力が国際社会に与える影響について、メリットおよびデメリットをあげて論述しなさい。

〔3〕〔「日本学・比較文化」プログラム〕

日本の食文化の特徴を具体的に示しなさい。また、このような日本の食文化を次の世代に継承するとともに海外へ発信していくために私たちができることを示しなさい。

〔4〕〔「国際関係・地域研究」プログラム〕

クラウゼヴィッツ（Karl von Clausewitz）は 19 世紀前半の『戦争論』において、「戦争は他の手段をもってする政治の延長にほかならない」と述べた。この言説は、現代においてどの程度あてはまると考えられるか。具体例をあげながら、論じなさい。

論述問題 解答用紙

受験番号				
------	--	--	--	--

評点	
----	--

[共通問題]

[illegible]

答案番号		
------	--	--

論述問題 解答用紙

受験番号				
------	--	--	--	--

評点	
----	--

〔選択問題〕 解答した問題に○：〔1〕・〔2〕・〔3〕・〔4〕

[illegible]

答案番 号		
----------	--	--

小論文 出題の意図

入 試 年 度： 2025（令和 7）年度

入 試 名 称： 大学院（2 月期）論述試験

入試実施日： 2025（令和 7）年 2 月 9 日

※この「出題の意図」についての質問、照会には一切回答しません。

共通問題と選択問題から構成される。

共通問題では、研究科全体に共通するテーマについて学力をはかる内容とし、解答により知識、論理力、記述力を判定する。今回は、現在、社会的課題ともなっている生成 AI の利活用の問題を国際文化交流学との関わりでその可能性と問題点を論じさせ、基本的な知識、論述力を考査した。

選択問題では、「入試志願票」で希望したプログラムに応じた問題とし、より専門的な教育を受けるために必要な知識、論理力、記述力を判定する。

〔1〕アートマネジメントでは、博物館・美術館、図書館、文書館の相互連携（MLA 連携）をとりあげ、その可能性等について論じさせる問題を出題した。

〔2〕国際協力では、科学技術協力と国際社会の関係性や相互に与える影響のメリット、デメリットについて問うた。

〔3〕日本学・比較文化では、食文化の観点から日本文化の継承の問題や海外への発信の可能性についてその知識や問題意識を考査した。

〔4〕国際関係・地域研究では、「戦争は他の手段をもってする政治の延長に他ならない」とのクラウゼヴィッツの言説が有する現代的意義について論じさせた。

以上